

短 報

インドネシア人看護師候補者の国家試験合格への道 —三之町病院の取り組み—

五十嵐博美¹⁾ 樋口 博一¹⁾ ヤレド・フェブリアン・フェルナンデス¹⁾
リア・アグスティナ¹⁾ 深谷 計子²⁾

How Did the Foreign Nurse Candidates Do in Japan's National Nursing Examination? : Efforts of Sannocho Hospital

Hiromi IKARASHI, RN¹⁾ Hirokazu HIGUCHI¹⁾ Yared FEBRIAN FERNANDES, RN¹⁾
Ria AGUSTINA, RN¹⁾ Keiko FUKAYA, MA²⁾

〔Abstract〕

This article describes the efforts of the staff at Sannocho Hospital to help their two Indonesian nurses dispatched through EPA(Economic Partnership Agreement) study for and pass the national nursing examination. A content-based language learning style, using national nursing examinations to learn both Japanese language and nursing knowledge simultaneously - combined with close communication with and support from hospital staff - may have been the key to their success. Although the nurses at Sannocho Hospital were successful, nearly 99% of foreign nurse candidates failed the recent national nursing examination. These dire results not only pose a financial burden for the hospitals which accept the candidates, but also represent a failure to achieve the goals of both the foreign nurses who participate in this program and the Japanese government which has implemented this program in order to increase the number of nurses in Japan. In order to reduce the burden on hospitals receiving foreign nurse candidates, achieve the goal of increasing the number of nurses in Japan, and motivate the candidates themselves, the issue of whether to extend the three-year trial period as well as a revision of the examination questions needs to be addressed at the national level.

〔Key words〕 foreign nurse candidate, Indonesian nurses, national nursing examination, pass

〔要 旨〕

本稿は、平成 20 年に 経済連携協定（EPA）に基づいて外国人看護師候補者としてインドネシア人 2 名を受け入れ、看護師国家試験合格に導いた一病院の取り組みの報告と、インドネシア人看護師候補者からの勉強方法についての報告をまとめたものである。候補者の努力、組織としての病院や周囲の人々のサポートが成功につながったが、日本語と試験問題の勉強は別々に行うのではなく、過去問をテキストとして使用し、その中で言語と専門知識を学習する方法が効果があったと考えられる。しかしながら、多くの施設がこの協定による受け入れを負担に感じており、その負担を軽減する意味においても、合格までの期間の延長や試験問題の見直しなどが求められる。

1) 社会医療法人嵐陽会三之町病院 Ranyoukai Health-Care Corporation Sannocho Hospital
2) 聖路加看護大学 英語 St. Luke's College of Nursing, English

【キーワード】 外国人看護師，インドネシア人，看護師国家試験，合格

I. はじめに

平成 20 年 8 月に 経済連携協定 (EPA) に基づくインドネシア人看護師候補者の受け入れが始まったが、三之町病院ではこの年に女性 1 名、男性 1 名の計 2 名の 20 代半ばの看護師候補者を受け入れ、2 年後の平成 22 年の国家試験でこの 2 名の合格に漕ぎつけた。本稿はこの三之町病院、2 名の看護師、日本語教師の国家試験合格への取り組みについての記録である。

三之町病院が受け入れた候補者 A は、英語は堪能で、インドネシア大学を卒業後、専門看護師として内科と救急で 2 年間勤務した。一方、候補者 B は、英語はある程度話せ、3 年の看護専門学校を卒業後、循環器系の病院に 4 年間勤務の後、来日した。

II. 受け入れ施設三之町病院側から

1. 受け入れの経緯 (表 1)

平成 20 年 5 月、EPA に基づくインドネシア人看護師候補者の受け入れ説明会が翌日東京で急遽開催されるという情報が流れた。翌日、本病院の事務職が説明会に参加して持ち帰った情報を病院内で検討し、受け入れの申し込みを行った。1 次マッチングで候補者 A と B はすぐに決まったが、その後の事務手続きは政府側が迅速対応を求めたために、非常に煩雑なものであった。

同年 8 月、来日 2 日目に会った時は 2 人は「こんにちは」「ありがとうございます」以外にはまったく日本語を話すことができず、彼らも私たちも心配や不安が先立っていたが、私たちは 3 年間 2 人の人生を預かることになるので、全力投球で彼らを受け入れようと考えた。彼らは名古屋で 6 カ月の日本語研修を受け、21 年 2 月に三之町病院に着任する予定であった。

約 1 カ月後、看護科総師長が出した手紙に 2 人からすべてひらがなで書かれた返事が届き、日本語の教育の順調な成果が見られた。2 カ月目の手紙には漢字もあり、研修センターのスタッフの熱いサポートを感じた。4 カ月目からふりがな・ローマ字つきの日本語で e メールでのやり取りが始まり、私たちは彼らの日本語研修終了後の生活に関する疑問に答えていった。

2. 受け入れの体制

本院では候補者を「労働力」ではなく「ゲスト」として受け入れる意向を全職員に周知させた。「インドネシ

アでは人前で叱られる習慣がないので大声で怒鳴ることは控える」「イスラム教信者は左手が不浄の手とされているので、左手での握手は避ける」「腰に手をおいて指さししながら話すとは叱られているような気持ちに陥りやすい」「孤独をきらい、好んで仲間と食事をしたり楽しんだりする国民性をもつ」「祈りの場所を提供する」など具体的に職員に説明した。

彼らの受け入れに当たり、医師・総師長・看護師・事務職 2 名からなる教育指導者をはじめ、総務・施設課が生活支援、住宅、日用品、電化製品の準備を進めた。受け入れには支援チームが中心となり、全職員が協力し、家に招待したり、イベントを催したりして精神面でサポートしながら日本の文化や四季を理解してもらえるように努めた。

3. 候補者の勤務と学習

候補者は午前中は病棟勤務、午後は毎日 4 時間学習を行った (表 2)。午前中は看護助手として、入浴介助、環境整備、患者搬送、食事介助、排泄介助を行ったが、臨床現場は日本語習得に画期的な場となった。患者さんの早口や方言にも対処する必要があり、また書面の略字、行書、草書、癖字などを理解しなくてはならなかった。午後の学習時間には、過去 5 年間の問題集や模擬問題集に取り組んだり、現場に出て医師や看護師の説明を受けたり、事務職のスタッフと一緒に WEB からダウンロードした日本語の能力試験 2 級を使って、漢字・語彙・文法を勉強した。毎週院外で行った日本語の学習では、初めはテキストで学習していたが、本院の意見で、中盤から過去問題集での学習に切り替えてもらった。夜、彼らは自宅では平均 2～3 時間勉強していた。

彼らは初めは 1 問解くにも 1 時間かかったが、看護科総師長が 1 問 1 問をイメージさせながら教え、徐々に同じ問題を解く場合には 1 問 1 分程度を目標とした。問題を解くとき、答えだけでなく、その答えにつながる背景知識を説明した。

4. 苦労した点

この受け入れが日本で初めての試みであり、他の施設との連携がないために、本院での教育方法が適切であるかどうかの不安の中で手探りで取り組んだ。

外国人看護師を受け入れることは異文化をもった人を受け入れることであり、宗教面では祈りの時間、場所の提供や食事に配慮する必要があった。2 人のうちの 1 人

表1 インドネシア人看護師候補者の受け入れから合格までの経緯

年	月	日	
20.	5	22	東京虎ノ門の国立がん研究振興財団国際研究交流会館での説明会に参加
20.	6		申込開始（7 月中にマッチング作業のため、迅速な対応を求められる）
20.	7		申込手続き
20.	8	7	インドネシア人看護師候補者来日
20.	8	8	開講式 AOTS（CKC）中部研修センターで初対面（通訳を介して） 名古屋へ看護科総師長の五十嵐と総務課樋口が出張 看護科総師長の五十嵐が手紙を送る
20.	9		AとBからハガキが届く
20.	11		第1回 研修報告会
20.	12		第2回 研修報告会
			AOTSのスタッフ及びAとBにメールでのやり取り開始
20.	12	28	AとBが三之町病院に施設見学に
21.	1	26	ガルダサポーターズ設立
21.	2	12	第3回 研修報告会 終了式
21.	2	13	三之町病院に着任
21.	2	21	第98回看護師国家試験受験
21.	3	26	歓迎会（病院施設内食堂にて）
21.	4	11	お花見会
21.	4		剣道を習い始める
21.	5	3～	日本語の先生の実家にご招待（山形）
21.	6		ソフトバレーボール大会
			在留資格の更新
21.	8	2	花火大会
21.	10	10	模擬試験実施（JICWELS 主催：東京）
21.	10	3	バーベキュー大会
		29	フィリピン人候補者着任
21.	12	19	忘年会
		28	年末特別講義（ガルダサポーターズ主催：東京）
22.	2	21	第99回看護師国家試験
22.	3		ボーリング大会
		26	国家試験発表

表2 候補者の週間スケジュール

時間	月	火	水	木	金	土
勤務時間 8:30-12:30	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	自主学習
学習時間 13:30-17:30 (14:00-16:00は 指導時間)	看護指導 ・過去問題	看護指導 ・現場 ・練習問題	日本語指導 ・日本の文化/ 歴史/地域の 特性	看護指導 ・現場 ・練習問題	日本語指導 ・過去問題 ・日本語能力 試験	
プライベート	剣道 20:00-21:30			バレーボール 20:00-21:30	日本語学校 19:00-20:00	

はイスラム教なのでハラール料理（豚肉やアルコールが厳禁）でなければならない。結局、自分で食パンを用いたお弁当を持参していた。日本で生活していく上で豚肉とアルコールを避けた食生活がいかに難しいかを感じた。また、2人の体調管理にも気を配った。新潟県の冬はとても寒いので、暖かいインドネシアで育った2人が体調を崩さないように配慮した。

他にも、受け入れ前の数回にわたる名古屋の研修センターへの交通費や病院着任後の生活雑貨の支援などといった経費の負担増や、メディアなどへの対応にも苦慮した。EPAを知らない取材者からの問い合わせには、時間と

労力がかなり費やされた。

5. 成功要因

今回の受け入れが素晴らしい結果を生んだ要因として多くのことが挙げられる。受け入れに当たっての全職員への事前周知説明会を実施したこと、支援チームを作り病院内のサポート体制を確立したこと、病院長自ら率先して専門分野の講義をしたり、2人を公私にわたり家族のように扱ったりしたこと、休日にもかかわらず職員が食事やレクリエーションに誘ってサポートしたこと、コンピュータにいつでもアクセスできる環境を作ったこと、

看護科総師長が毎日2人に日記を書かせて助詞や助動詞や言葉の言い回しの添削をしたことなどがある。また、今回の取り組みでは午前中勤務で、午後を勉強時間にあて、仕事＝勉強という方針で進めたことは大きな成功要因である。午後の学習時間を設けなければ3回の国家試験チャレンジで資格取得はかなり難しいものとなると思われる。また、国際厚生事業団(JICWELS)から提供された資料や模擬試験および結果分析データは2人の苦手分野攻略の足がかりになり、モチベーションの向上につながった。財団法人海外技術者研修協会(AOTS)や年末に集中講義(公衆衛生など)を企画してくれたガルーダサポーターズ(EPAにより来日したインドネシア人介護福祉士、看護師候補者をサポートする会)のスタッフの協力、日本語の先生、その他多くの方々の温かい協力が成功につながったと確信している。来日時にすでに候補者たちの看護知識が十分であった可能性もあるが、いろいろな機関や専門家から推薦された図書をすぐに購入して学習し、自己の看護知識や能力を十分に発揮できるだけの日本語力や試験問題解答力を養った候補者の努力が成功要因であることはいうまでもない。

Ⅲ. 日本語教師から

1. 優先した学習

日本語教師としては少なくとも日本語能力試験2級の力をもった上で看護師国家試験に合格を希望したいが、候補者の目標は看護師国家試験合格なので、看護師試験問題を試験問題ではなく日本語の教科書として使用するのが最適であろうと考えた。その中にある漢字、語彙、文法、読解を中心に指導し、「予習→授業→復習→試験→不明点や不正解箇所の是正→試験→良好」なら次に進むという順を踏んだ。日本語能力については、合格後、教材としてパターン別日本語能力試験1～3級ドリルを候補者自身が購入し、取り組んでいる。

2. 教材

看護師国家試験過去問題集が中心で、その他にはJICWELSから提供された「介護の言葉と漢字ハンドブック」「介護の言葉と漢字ワークブック」「日本語でケアナビ」を用いた。過去問題集についてはJICWELSが日本語・インドネシア語対訳版を作成し、WEB上で公開している。

3. 個人によって異なる学習方法

候補者の日本語レベルは現在ほぼ同じである。当初はわからない言葉を候補者Aが辞書で調べて候補者Bにインドネシア語で伝えていた。

候補者Aとはにかく書くことでよく覚えられると言い、

問題は必ず声に出して読み、患者さんとは積極的に会話するように心がけていた。わからないことは、必ず、その場、もしくは後で質問した。候補者Bは、日本語の習得方法を自分なりに工夫し、漢字を覚える時も部首から覚えたり、似た漢字をまとめたりして、ことばの関連性を重視して学習していた。

問題を解く場合も候補者Aは漢字をかなり習得しているために、問題の答えを探そうとした。一方、候補者Bは試験の問題を分析しながら解答するストラテジーを用い、消去法で問題を解いていた。

4. 日本語指導での苦慮した点

指導者でもわからない難解な日本語や専門語が問題文にあり、それを2人に理解させるのに相当な時間を要した。2人ともが理解することに重点を置き、1つ1つの単語を辞書やWEB媒体で調べ、日本語→英語→母国語に直して理解させた。

Ⅳ. 候補者側から

1. 学習方法

1) 候補者Aの場合

毎日、帰宅後すぐ、あるいは午前3時に起床してから3時間程度、そして休日にも2、3時間を勉強時間にあてた。1回目に受験した第98回の試験問題の漢字に読みがなをふってもらってその練習から始め、過去5年から8年の試験問題をなぜその解答になるのかを探りながら勉強した。わからない箇所はテキストに辞書や参考書で調べたことを書き込んだり、ノートにメモをとった。また、よく出題される問題を疾患別や分野別に分類して学習した。

自宅学習では、知らない漢字やよく出てくる漢字をメモし、トイレの中に貼ったり、枕の下に置いておいたりした。徐々に、模擬試験や過去問を本番の試験のように解いてみた。試験間際では過去問の必修問題を集中的に練習した。乗り物での移動時には、ポケットブック・メディアブックを携帯して、その内容を暗記した。

2) 候補者Bの場合

集中力は長時間持続しないので時間を区切って違った勉強方法をとったが、学習は1つ1つ地道に行った。基本的には看護知識の復習と過去問のキーワードの意味調べおよび反対語調べを中心に勉強した。学習の復習を入念にし、覚えるために同じ漢字を書いたり、よく用いられる漢字を辞書で調べて覚えたりした。また、毎年、国家試験問題はそれほど変わらないので、問題の分析をした。

表3 役立った教材・WEB サイト

書 名	発 行 年	出 版 社
テコム プレテスト シリーズ		
第 98 回看護師国家試験対策模擬試験 3 解説書		
オールカラー学習漢字新辞典		小学館
図説 国民衛生の動向 2009	2009	厚生統計協会
必修ラ・スパ 2010	2009	医学評論社
ラ・スパ過去問対策 2010	2009	医学評論社
ビジュアルノート第 3 版	2008	メディックメディア
Questionbook for nurse 2009, the 9th edition 看護師・看護学生のためのレビューブック 第 9 版	2007	メディックメディア
Weblio 英和和英辞典	http://ejje.weblio.jp	
日本語でケアナビ（インドネシア語表記あり）	http://www.nihongodecarenavi.com	
アニメ・マンガの日本語	http://anime-manga.jp	
チュウ太の web 辞書	http://chuta.jp	

2. 役立った教材

JICWELS から提供された教材、e-learning 教材はすべて役に立った。平成 21 年末にガルーダサポーターズが開催した国家試験対策講義、また日本語の勉強としてホームステイが役立った。他に役立った教材や WEB サイトを表 3 に示した。

3. 日本語の困難点

日本語を書く場合、はじめは単語 1 つ 1 つを分けてスペースを空けてひらがなで書いた。AOTS での漢字習得は 700 字であり、少し漢字の習得が進むと同義語などは漢字で書いたほうが理解しやすくなってきた。漢字は一見難しく思えるが、部首の意味などを調べていくうちに似たような部首やつくりが出てくると、なんとなく漢字の意味や雰囲気を感じることができ、習得が面白くなってきた。漢字は真似て書くことから始め、繰り返して同じ漢字を書いているうちに漢字に慣れてきた。

読む場合は標準語であるし、自分のペースで読むので理解しやすい。

聞く力をつけるためにテレビをつけっぱなしにして、わからないながら音を聞いていたが、主語がない会話が多いので何を言っているのかとても理解が難しかった。初めは一緒に話している相手が早口に聞こえ、相手の話が理解できなかったが、少しゆっくり話してもらい、わからない単語を調べていくうちに何を伝えようとしているのかが少しずつ理解できるようになった。年配の方の話し方や「あっちゃってえー（＝熱い）」「あっぱ（＝大便）」といった方言は初めはまったく聞き取れなかったが、方言の単語がわかってくると患者さんのジェスチャーや口の動きでなんとなく理解できるようになった。聞いてわからない場合は繰り返しわかるまで聞いた。

話す場合は、頭でインドネシア語を英語に変換し、それを辞書で調べてから日本語に訳して話すという方法を用いた。インドネシア語から日本語への直訳辞書は単語

数が少なかったので WEB サイトで英語翻訳をしたりしたが、まったく通じない場合は全身を使ってジェスチャーで猛アピールをした。

4. サポート体制

ホームシックになったが、中部研修センター（CKC）のスタッフや日本語教育の先生方の大きなサポートに感謝している。心身の健康が第一なので、映画、音楽、買い物などの気分転換をし、勉強意欲を維持する方法を探った。

5. その他

疾患別、分野別の講義、ネフローゼ症候群とは何かといった病気についての解説と必要な薬についての講義があったら、もう少し看護知識の理解が容易だったと思う。

V. 当施設を視察した結果から

三之町病院を訪れて驚いたことの 1 つに通信環境の整備が挙げられる。候補者たちの研修室にはコンピュータが設置されていて、2 人はわからない語に出会ったときの解決方法などをコンピュータのサイトを開きながら説明してくれた。コンピュータの周りには山と積まれた看護の試験勉強のための本があり、その本にはびっしりと細かい字で書き込みがしてあった。また、インタビューに対応してくれた看護科総経理と候補者たちの会話は指導者と学習者というより、母子のような優しい雰囲気であった。

多くの言葉に出会い、すぐに辞書でわからないことを調べ、教科書にびっしりと鉛筆で書き込んで学習する候補者 A、教科書の内容を分析し、情報を自分で再構築しながら学習する候補者 B の 2 人の異なる学習方法を見て、教える側が学習方法を強制的に指導するのではなく、学習者個人が自分に最適な学習スタイルを熟知し、そのス

タイトルでの学習を支援することが大きな効果を生むと感じた。

学習面でのサポート以外に精神面でのサポートとして、各種イベントや全職員の精神的なサポートが彼らの支えとなったのは間違いない。三之町病院での調査終了後、病院の玄関まで見送りにいらして下さった看護科総師長、総務課主任と一緒に候補者たちが私の乗ったタクシーが見えなくなるまで見送ってくれた態度を見て、看護師としての彼らの未来を見た気がした。

Ⅵ. おわりに

今回の EPA 受け入れの目的を今の病院の看護師不足の打開のためではなく、今後日本の医療や地域医療を支えていくための EPA 制度作りであるとする考えのもとで、候補者の人間性と努力、協力者のサポート、組織としての病院のサポートなどあらゆるものが絡みあって相乗効果を生み、今回の結果に至ったと思われる。

この調査から、看護師国家試験の合格率を上げるには

期限を3年から5年に延長し、候補者が勉強できる環境を整備することを提言したい。三之町病院でも経費の負担増を述べていたが、筆者が調査した東京近郊の複数の受け入れ施設の看護師長や病院長も同じ悩みを訴えていた。経費の負担は小規模の病院では経営に大きく影響し、候補者が合格しなかった場合は、大きな負担となる。また、難解な漢字や主語の省略などで問題となっていた試験問題の表記方法については、平成22年の8月末に厚生労働省から表記方法について詳細な指示が出され、平成23年度の試験問題は外国人でも理解しやすい出題形式になることが予測されることは喜ばしいことである。このEPAによる外国人看護師受け入れの制度が、候補者の努力、周囲の支援者たちの努力が実るような制度になることを切に願っている。

本研究は文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)プロジェクト No.21520594「日米の看護師国家試験問題のテキスト理解と語彙：使用言語の難易度の妥当性」の一部として行われたものである。